

拝啓梅雨の候御清適御過ごしのことと存じ上げ
ます

叔光嬢は御高著詩集「宵待草」御惠送下さい
まして有り難く拜受付けました
早速御礼を申し上げますの如何や彼と違はれまして
延引致してしまひました失礼の程御着怒下され
度願ひます

沢山の詩集を贈呈されて居りますのが「宵待草」には
心打たれました

その水は詩としての上手とか下手とかとは別です
心のままを何の飾り気もなくうたはれて来ます
その水が何とも言ふ水方いのです

技巧も修辭もなくして感動を与へる効果 二水は
貴方の詩精神の純粋性によるものと思ひます
どの作品も造花でありません生き生きとした眞の花

です

折紙込^み 告 草履 改新 公休日に布田

少女の事等 常海道五十三次 等は特に心なかれ

ました

難しい御職業にも不物の御作品感嘆の他ありません
詩心その水は百万ドルのダイヤモンド以上のものです
何卒大切にして下さい

先は送川下り御礼を申し上げます

梅雨期にて不順の折柄御加害を祈ります 敬具

昭和四十五年六月二十四日

田中冬二

大友 澄 様

六月二十四日



191-□□

日野市豊田一〇九。

田中冬二